



## 2022年9月期 決算短信〔日本基準〕(非連結)

2022年11月10日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社Amazia

コード番号 4424 URL <https://amazia.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 佐久間 亮輔

問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO

(氏名) 神津 光良

TEL 03-6427-8856

定時株主総会開催予定日 2022年12月23日

有価証券報告書提出予定日

2022年12月26日

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 有 機関投資家及びアナリスト向け

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年9月期の業績(2021年10月1日～2022年9月30日)

#### (1) 経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年9月期	6,547	△12.8	116	△59.4	144	△50.4	41	△77.7
2021年9月期	7,507	△0.2	287	△73.8	290	△73.2	185	△75.3

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2022年9月期	6.14	6.04	2.1	4.9	1.8
2021年9月期	27.55	26.74	10.0	9.5	3.8

(参考) 持分法投資損益 2022年9月期 —百万円 2021年9月期 —百万円

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年9月期	2,864	2,041	66.1	286.40
2021年9月期	3,020	2,049	64.4	289.03

(参考) 自己資本 2022年9月期 1,893百万円 2021年9月期 1,946百万円

#### (3) キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2022年9月期	57	△130	△94	1,731
2021年9月期	224	△25	7	1,899

### 2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向	純資産 配当率
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2021年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—
2022年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—
2023年9月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—

### 3. 2023年9月期の業績予想(2022年10月1日～2023年9月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	2,919	△14.6	158	—	159	—	102	—	15.58
通期	5,800	△11.4	230	97.4	230	59.9	145	251.7	21.94

※ 注記事項

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(2) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数

2022年9月期	6,754,600 株	2021年9月期	6,734,600 株
2022年9月期	143,599 株	2021年9月期	299 株
2022年9月期	6,716,082 株	2021年9月期	6,727,232 株

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 経営成績等の概況(4)今後の見通し」をご覧ください。

(決算説明会について)

当社は、2022年11月11日(金)に機関投資家及びアナリスト向けの決算説明会を開催する予定です。

この説明会で使用する決算説明資料につきましては、TDnetで本決算短信と同時に開示するとともに、当社ホームページに掲載いたします。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当期の財政状態の概況 .....	2
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況 .....	3
(4) 今後の見通し .....	3
(5) 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	3
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方 .....	3
3. 財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 貸借対照表 .....	4
(2) 損益計算書 .....	6
(3) 株主資本等変動計算書 .....	8
(4) キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(5) 財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(会計方針の変更) .....	10
(追加情報) .....	10
(セグメント情報等) .....	10
(収益認識関係) .....	11
(持分法損益等) .....	11
(1株当たり情報) .....	12

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当期の経営成績の概況

当社が属する電子書籍市場規模は、インプレス総合研究所「電子書籍ビジネス調査報告書2022」によると、2021年度の電子書籍市場（電子書籍＋電子雑誌）規模は5,510億円と推計され、2020年度の4,821億円から689億円（14.3%）増加し、2026年度には8,000億円を超える市場に成長すると予測されています。また、2021年度のマンガアプリ広告収益市場は前年と同額の260億円であるものの、2022年度は270億円に増加すると予測されており、アプリでマンガを楽しむユーザーは、引き続き増加傾向にあります。

一方で、厳しい競争環境と新型コロナウイルスの感染状況の改善に伴うユーザー行動の変化等が、1人当たり課金売上に影響を与えていると認識しております。また、個人情報保護強化による影響や世界経済の停滞及び国内のインフレによる広告市況の悪化等が、1日当たり広告収益の低下をもたらしております。

このような市場環境の中で、主力である「マンガBANG!」のフリーミアムモデル（注）のコーナーにおいて、配信される作品の差別化を図るために、オリジナル作品の創出、出版社作品の先行配信を行うとともに、配信作品の拡充を図るために、株式会社KADOKAWA等の新規取引先との取引を開始しました。また、2022年6月まではユーザー数の増加を重視して広告宣伝費を投下して参りましたが、市場環境等を踏まえて、2022年7月以降は効率的に広告宣伝費を投下して参りました。

以上の結果、当事業年度における売上高は6,547,840千円（前年同期比12.8%減）、営業利益は116,573千円（前年同期比59.4%減）、経常利益は144,132千円（前年同期比50.4%減）、当期純利益は41,243千円（前年同期比77.7%減）となりました。

なお、当社はマンガアプリ事業の単一セグメントであるため、セグメント毎の記載はしておりません。

（注）フリーミアムモデル：基本的なサービスはすべて無料で提供し、一部の機能を有料で提供するビジネスモデル。

### (2) 当期の財政状態の概況

#### （資産の部）

当事業年度末における総資産は2,864,191千円となり、前事業年度末に比べ155,989千円減少いたしました。これは主に、敷金及び保証金が71,277千円増加した一方、現金及び預金が167,898千円、未収還付法人税等が82,306千円減少したことによるものであります。

#### （負債の部）

当事業年度末における負債合計は822,882千円となり、前事業年度末に比べ147,598千円減少いたしました。これは主に、前受金が30,147千円、未払法人税等が23,204千円増加した一方、未払金が191,545千円減少したことによるものであります。

#### （純資産の部）

当事業年度末における純資産は2,041,309千円となり、前事業年度末に比べ8,390千円減少いたしました。これは主に、新株予約権が44,665千円、当期純利益の計上により利益剰余金が41,243千円増加した一方、自己株式の取得により103,299千円減少したことによるものであります。

**(3) 当期のキャッシュ・フローの概況**

当事業年度における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前事業年度末に比べ167,898千円減少し、1,731,646千円となりました。当事業年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

**(営業活動によるキャッシュ・フロー)**

当事業年度における営業活動の結果得られた資金は、57,328千円（前事業年度は224,132千円の収入）となりました。その主な要因は、未払金の減少191,545千円により資金が減少した一方、税引前当期純利益の計上94,132千円、売上債権の減少69,759千円、投資有価証券評価損の計上49,999千円、株式報酬費用の計上44,665千円により資金が増加したことによるものであります。

**(投資活動によるキャッシュ・フロー)**

当事業年度における投資活動の結果使用した資金は、130,301千円（前事業年度は25,887千円の支出）となりました。その主な要因は、敷金及び保証金の差入による支出72,423千円、投資有価証券の取得による支出49,999千円によるものであります。

**(財務活動によるキャッシュ・フロー)**

当事業年度における財務活動の結果使用した資金は、94,924千円（前事業年度は7,368千円の収入）となりました。その主な要因は、自己株式の取得による支出103,834千円によるものであります。

**(4) 今後の見通し**

当社を取り巻く事業環境におきましては、電子書籍市場が拡大する中で、競争激化による広告獲得単価の悪化、世界経済の停滞及び国内のインフレによる広告市況の悪化に伴う広告収益単価の低下等、厳しい市場環境が続いております。

当社は、このような厳しい市場環境が当面続くものと想定しております。そのため、今後は、MAUの拡大よりも一定規模のMAUが維持できる水準で広告宣伝費を効率的に投下し、利益を出しながら、オリジナル作品の制作に注力し、大ヒット・メディアミックス化による収益の重層化を目指して参ります。また、マンガアプリの海外展開におきましては、海外向け自社マンガアプリ「Manga Flip」をリニューアルし、課金モデルの追加等を進めて参ります。

新規事業におきましては、当社の強みであるアプリ開発力とマネタイズ力を活用したサービスの創出を目指すとともに、事業シナジーを見据えたM&Aも有効手段として検討する等、当社の事業拡大に必要な先行投資を積極的に進めて参ります。

なお新型コロナウイルス感染症の拡大により、働き方に対する影響や広告宣伝戦略に対する影響が予想されますが、現状において、当社の事業や業績への過大な影響はみとめられておりません。

以上より、2023年9月期の業績は、売上高5,800百万円（前年同期比11.4%減）、営業利益は230百万円（前年同期比97.4%増）、経常利益は230百万円（前年同期比59.9%増）、当期純利益は145百万円（前年同期比251.7%増）を見込んでおります。

**(5) 継続企業の前提に関する重要事象等**

該当事項はありません。

**2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方**

当社は、財務諸表の期間比較可能性及び国内の同業他社との比較可能性を確保するため、会計基準につきましては日本基準を適用しております。

なお、国際会計基準の適用については、株主構成及び国内の同業他社の動向等を踏まえ、適切に対応していく方針であります。

## 3. 財務諸表及び主な注記

## (1) 貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年9月30日)	当事業年度 (2022年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,899,544	1,731,646
売掛金	749,681	679,922
コンテンツ	7,193	5,423
前払費用	16,903	41,656
未収還付法人税等	82,306	-
その他	61,357	105,009
流動資産合計	2,816,987	2,563,659
固定資産		
有形固定資産		
建物	10,494	10,494
減価償却累計額	△7,163	△8,822
建物(純額)	3,330	1,671
工具、器具及び備品	9,307	11,365
減価償却累計額	△5,601	△7,491
工具、器具及び備品(純額)	3,706	3,873
建設仮勘定	-	5,566
有形固定資産合計	7,036	11,111
投資その他の資産		
敷金及び保証金	107,369	178,647
投資有価証券	-	0
繰延税金資産	88,788	110,774
投資その他の資産合計	196,157	289,421
固定資産合計	203,193	300,532
資産合計	3,020,181	2,864,191

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年9月30日)	当事業年度 (2022年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	333,636	321,875
未払金	462,035	270,489
未払費用	4,757	6,402
未払法人税等	-	23,204
前受金	164,651	194,798
預り金	3,716	3,711
賞与引当金	1,650	2,400
その他	33	-
流動負債合計	970,480	822,882
負債合計	970,480	822,882
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	361,504	366,004
資本剰余金		
資本準備金	357,790	362,290
資本剰余金合計	357,790	362,290
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	1,227,534	1,268,777
利益剰余金合計	1,227,534	1,268,777
自己株式	△393	△103,693
株主資本合計	1,946,436	1,893,379
新株予約権	103,264	147,929
純資産合計	2,049,700	2,041,309
負債純資産合計	3,020,181	2,864,191

## (2) 損益計算書

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)	当事業年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)
売上高	7,507,568	6,547,840
売上原価	4,813,936	4,202,376
売上総利益	2,693,631	2,345,464
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	1,993,470	1,778,456
役員報酬	73,350	71,130
従業員給料及び手当	104,247	126,169
法定福利費	23,623	29,272
株式報酬費用	48,807	42,794
支払報酬	36,088	44,848
その他	126,764	136,220
販売費及び一般管理費合計	2,406,351	2,228,890
営業利益	287,280	116,573
営業外収益		
受取利息	19	18
為替差益	-	20,780
受取手数料	3,633	6,597
その他	67	802
営業外収益合計	3,720	28,198
営業外費用		
支払利息	23	-
為替差損	4	-
株式交付費	120	90
支払手数料	-	535
その他	8	15
営業外費用合計	156	640
経常利益	290,843	144,132
特別損失		
投資有価証券評価損	-	49,999
特別損失合計	-	49,999
税引前当期純利益	290,843	94,132
法人税、住民税及び事業税	109,056	74,875
法人税等調整額	△3,553	△21,986
法人税等合計	105,503	52,889
当期純利益	185,340	41,243

## 売上原価明細書

区分	注記 番号	前事業年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)		当事業年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
I 仕入高		4,629,965	96.0	3,983,213	94.7
II 労務費		60,942	1.3	61,504	1.4
III 経費	※1	130,222	2.7	162,588	3.9
合計		4,821,130	100.0	4,207,307	100.0
他勘定振替高	※2	7,193		4,930	
売上原価		4,813,936		4,202,376	

(注) ※1 主な内訳は、次のとおりであります。

項目	前事業年度(千円)	当事業年度(千円)
外注費	49,999	57,995
賃借料	65,511	90,449

※2 他勘定振替高の内容は、次のとおりであります。

項目	前事業年度(千円)	当事業年度(千円)
コンテンツ	7,193	4,930
計	7,193	4,930

(原価計算の方法)

当社の原価計算は、個別原価計算による実際原価計算であります。

## (3) 株主資本等変動計算書

前事業年度(自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)

(単位:千円)

	株主資本							新株予約権	純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	株主資本 合計		
		資本準備金	資本剰余金 合計	その他利益 剰余金 繰越利益剰 余金	利益剰余金 合計				
当期首残高	356,089	352,375	352,375	1,042,193	1,042,193	△256	1,750,402	50,568	1,800,970
当期変動額									
新株の発行	5,415	5,415	5,415				10,830		10,830
当期純利益				185,340	185,340		185,340		185,340
自己株式の取得						△136	△136		△136
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)								52,695	52,695
当期変動額合計	5,415	5,415	5,415	185,340	185,340	△136	196,034	52,695	248,729
当期末残高	361,504	357,790	357,790	1,227,534	1,227,534	△393	1,946,436	103,264	2,049,700

当事業年度(自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)

(単位:千円)

	株主資本							新株予約権	純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	株主資本 合計		
		資本準備金	資本剰余金 合計	その他利益 剰余金 繰越利益剰 余金	利益剰余金 合計				
当期首残高	361,504	357,790	357,790	1,227,534	1,227,534	△393	1,946,436	103,264	2,049,700
当期変動額									
新株の発行	4,500	4,500	4,500				9,000		9,000
当期純利益				41,243	41,243		41,243		41,243
自己株式の取得						△103,299	△103,299		△103,299
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)								44,665	44,665
当期変動額合計	4,500	4,500	4,500	41,243	41,243	△103,299	△53,056	44,665	△8,390
当期末残高	366,004	362,290	362,290	1,268,777	1,268,777	△103,693	1,893,379	147,929	2,041,309

## (4) キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)	当事業年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前当期純利益	290,843	94,132
減価償却費	5,134	3,788
差入保証金償却額	1,929	1,145
賞与引当金の増減額 (△は減少)	250	750
投資有価証券評価損益 (△は益)	-	49,999
受取利息	△19	△18
支払利息	23	-
支払手数料	-	535
株式交付費	120	90
株式報酬費用	52,695	44,665
売上債権の増減額 (△は増加)	452,152	69,759
仕入債務の増減額 (△は減少)	△19,943	△11,761
前受金の増減額 (△は減少)	51,462	30,147
未払金の増減額 (△は減少)	11,172	△191,545
その他	△88,376	△33,125
小計	757,445	58,562
利息及び配当金の受取額	19	18
利息の支払額	△19	-
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△533,313	27,858
その他	-	△29,111
営業活動によるキャッシュ・フロー	224,132	57,328
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
投資有価証券の取得による支出	-	△49,999
有形固定資産の取得による支出	△436	△7,908
敷金及び保証金の差入による支出	△25,517	△72,423
その他	67	30
投資活動によるキャッシュ・フロー	△25,887	△130,301
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	△3,205	-
新株予約権の行使による株式の発行による収入	10,710	8,910
自己株式の取得による支出	△136	△103,834
財務活動によるキャッシュ・フロー	7,368	△94,924
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	205,613	△167,898
現金及び現金同等物の期首残高	1,693,930	1,899,544
現金及び現金同等物の期末残高	1,899,544	1,731,646

(5) 財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当事業年度の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、利益剰余金期首残高へ与える影響はありません。

また、収益認識会計基準等の適用による当事業年度の損益に与える影響はありません。

なお、収益認識会計基準第89-3項に定める経過的な取扱いに従って、前事業年度に係る「収益認識関係」注記については記載していません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。

なお、時価算定会計基準の適用による財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会計上の見積りについて)

新型コロナウイルス感染症の収束時期を正確に予測することは困難な状況にありますが、当事業年度も引き続き新型コロナウイルス感染症の影響が一定期間継続するものとして会計上の見積りを行っております。

また、現時点において、当社の事業活動にも広告市況の悪化に伴う広告収益単価の下落といった影響が一部生じておりますが、当社の会計上の見積りに及ぼす重要な影響はないと判断しております。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大による影響は不確定要素が多く、翌事業年度以降の当社の財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(セグメント情報等)

(セグメント情報)

当社は、マンガアプリ事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## (収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当事業年度(自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント
	マンガアプリ事業
ユーザー向け	4,410,617
法人向け	2,137,223
顧客との契約から生じる収益	6,547,840
その他の収益	-
外部顧客への売上高	6,547,840

## (持分法損益等)

当社は、関連会社を有していないため、該当事項はありません。

## (1株当たり情報)

	前事業年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)	当事業年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)
1株当たり純資産	289.03円	286.40円
1株当たり当期純利益	27.55円	6.14円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	26.74円	6.04円

(注) 1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)	当事業年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)
1株当たり当期純利益		
当期純利益(千円)	185,340	41,243
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る当期純利益(千円)	185,340	41,243
普通株式の期中平均株式数(株)	6,727,232	6,716,082
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
当期純利益調整額(千円)	—	—
普通株式増加数(株)	203,331	113,423
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含まれなかった潜在株式の概要	第6回新株予約権 新株予約権の数 400個 普通株式 80,000株  第7回新株予約権 新株予約権の数 240個 普通株式 48,000株	第6回新株予約権 新株予約権の数 400個 普通株式 80,000株  第7回新株予約権 新株予約権の数 230個 普通株式 46,000株